

お知らせ

地域医療連携課より土曜日の開設時間延長のお知らせ

当院地域医療連携課においては、土曜日の午前中を紹介窓口として開設し、地域医療機関の先生方にご利用いただいております。この度、地域のニーズにお応えすべく検討させていただいた結果、より一層連携を強化するために、令和3年2月からは土曜日の開設時間をこれまでの12時30分から13時30分まで1時間延長させていただくことに致しました。

患者さんの診療および検査の予約や緊急紹介の調整など、利便性の高い地域医療連携課として今後も努めてまいりますので、何卒ご活用いただきますようお願い申し上げます。

変更前	変更後
8時30分～12時30分	8時30分～13時30分

運用開始：令和3年2月より

ホームページリニューアル

令和2年11月2日より、当院のホームページを7年ぶりにリニューアルいたしました。

「必要な情報を探しやすいホームページ」を目指して、ページ構成やデザインを見直しました。各診療科ページには今回から新たに、連携医の先生方へのメッセージを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。先生方に広く当院の医療活動を知っていただく大切な情報源として、これからも日々発信してまいります。

連携医の先生方へ

内科は内分泌・代謝領域と血液領域の疾患を専門に診療しています。糖尿病全般・甲状腺機能障害をはじめ、各種内分泌疾患の精密・加療について御用命を承ります。診断困難・治療困難例など含めご紹介いただければ幸いです。また難治性と言われる血液疾患も新規薬剤の登場により大きく予後の改善がもたらされています。あらゆる血液疾患に対して、あくまでも患者本位の治療を先生方と協同して進めていきたいと考えております。

各診療科ページに、連携医の先生方へのメッセージを掲載

当院訪問看護ステーションの特定看護師「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」

平成27年の保健師助産師看護師法改正により、特定行為研修を修了した看護師は、医師の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助を行えるようになりました。日本赤十字社も、平成30年2月に研修機関に指定され、当院では平成30年10月より2つの特定行為区分について看護師の育成を始めました。その第1号として、当院訪問看護ステーションの看護師3名が、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為研修を修了いたしました。

今後は手順書により指示を頂くことで、一段と早く利用者の変化に対応できると考えます。かかりつけの先生方の信頼を得ながら、特定行為看護師として実践できる場を築いていきたいと思っております。



写真左から大石看護師、内田副院長、山崎看護師長、白崎看護師

メールアドレスのご登録

当院ではこれまで郵送またはFAXにてお送りしていたご案内(広報誌など)をメール配信する取り組みを進めております。登録をご希望の方は地域医療連携課あてご連絡ください。

e-mail: renkei@fukui-med.jrc.or.jp

行事予定

地域がん診療研修会(会場参加またはリモート参加)

日時/令和3年3月18日(木)19:00～

会場/福井赤十字病院 栄養管理棟3階講堂

内容/『緩和ケアにおけるリハビリテーションの重要性と実際』

福井赤十字病院	外科部長(緩和ケアチーム医師)	吉羽 秀磨
	リハビリテーション科 理学療法士	向嶋 啓介
	作業療法士	浜田 友紀
	言語聴覚士	岩佐 茂美

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間/平日 8:00～18:30、土曜 8:30～12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)



http://www.fukui-med.jrc.or.jp
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第75号発行 令和3年1月 福井赤十字病院



Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.075

令和3年1月発行



病院ホームページをリニューアルしました。

当院HP トップページより

新年のご挨拶 令和3年 元旦

新年明けましておめでとうございます。連携の先生方にはご健勝にて良き年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年に引き続きCOVID-19が猛威を振るっておりますが、今後は、有効な治療法や、安全なワクチンが開発されるまでは、ウィズコロナの体制を考える必要があります。当院は感染症指定医療機関としてコロナ対応に全力であたると共に、地域医療支援病院として、かかりつけ医の先生方との医療連携を更に深め、地域全体の医療の質の向上にこれからも貢献してまいります。

また、「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」という中期ビジョンに沿って、昨年12月に脳卒中ケアユニット(SCU)を9床から12床へ拡張(2床は陰圧個室)し、脳卒中急性期患者さんの受け入れ体制の更なる充実を図りました。当院は脳神経外科・神経内科の医師が24時間体制で常駐するなど、ハード・ソフト両面で質の高い高度専門医療を提供し

てまいります。また、COVID-19重症患者さんをICUで受け入れた場合でも、一般重症患者さんに対しSCUの一部をHCUとして活用することで、COVID-19対応と高度急性期医療の両立を図ることとしています。

当院の医療活動を知っていただく大切な情報源として、昨年11月にホームページを7年ぶりにリニューアルいたしました。スマートフォン、タブレット表示にも対応しています。このように、本年も職員一同、皆様にご満足頂ける医療を目指し努力してまいります。昨年同様、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご発展を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



院長 高木 治樹

甲状腺疾患診察の豆知識

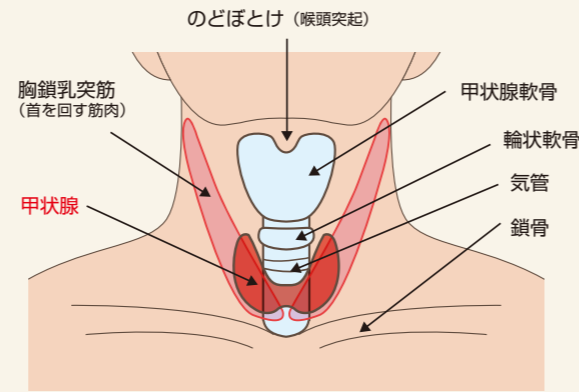


内科部長
夏井 耕之

今回は甲状腺疾患診察時の豆知識をご紹介します。
わたくしの「役に立つ」を大まかに紹介させていただくので、詳細は成書をご参照ください。

1. 甲状腺触診について(図1)

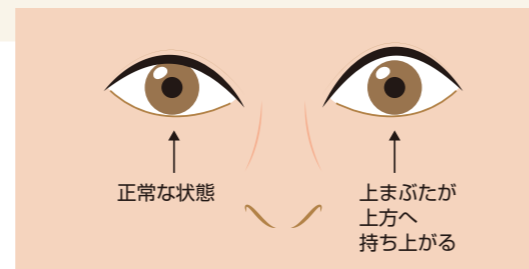
甲状腺の位置は意外に低い。甲状軟骨(喉仏)が前頸部の中央あたり、その直下に硬い輪状軟骨を触れ、さらにその下に甲状腺挟部上縁がある。胸鎖乳突筋が、甲状腺左右両端を覆うように存在し、甲状腺下部は胸骨に隠されることも。胸鎖乳突筋が発達していると、甲状腺の腫れと見間違ふことあり(腫大は左右はもちろん、前方へも腫れることに着目)。嚥下すると、軟骨とともに甲状腺(および結節)は上下に動く。動かない構造物は甲状腺外のもの。



(図1)

2. 機能亢進の診察において(図2)

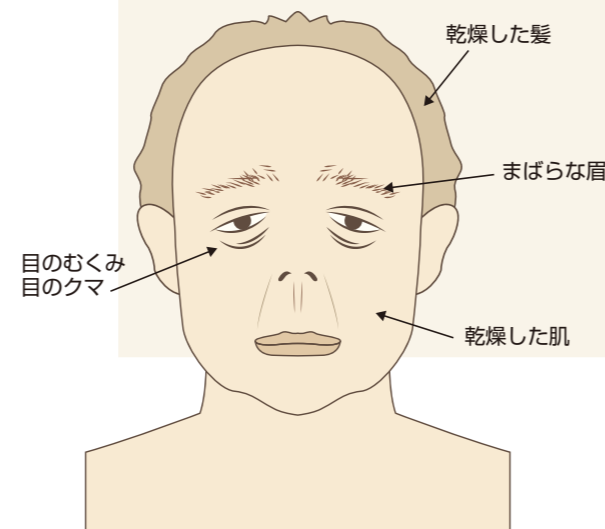
眼症の特徴を持っているとほぼバセドウ病で確定的。眼球突出がなくても、上眼瞼が(交感神経緊張・筋攣縮のため)後退するので、虹彩の上に眼球結膜(白目)が露出。下方視してもらうとよく解る(Graefe兆候)。眼裂左右差も多々あり。手指振戦は、両手を、手背を上前に挙げてもらい、上に紙(A4コピー用紙でも)を一枚乗せるとよく分かる。皮膚湿潤は、しずくのような発汗でなくとも、皮膚にふれると生暖かく湿っている。頻脈は必発。



(図2)

3. 機能低下の診察において(図3)

高齢者、女性>男性、高コレステロール血症、寒がり、眠気、便秘、しゃがれ声、甲状腺の硬い腫大、あるいは萎縮して触れにくい。乾燥してまばらな頭髪、主に外側から起こる眉毛脱毛、むくみっぽい眼瞼、目のくまや垂れ下がり気味の頬、皮膚乾燥、ふ厚め下口唇など、全体としてより高齢にみえる。浮腫は圧痕を残さない。橋本病患者の多くは実は甲状腺機能正常域が多い。これに海藻多食などが加わって機能低下となることも。偶然発見の甲状腺自己抗体陽性例は「橋本病疑い」、逆に自己抗体陰性で甲状腺腫大なしでも、ほかに原因のない慢性甲状腺機能低下は「橋本病疑い」(日本甲状腺学会・診断ガイドライン参照)となる。



その他、低温温床、易疲労感

(図3)

鼻腔形態に問題あり！ 鼻閉は手術で治します



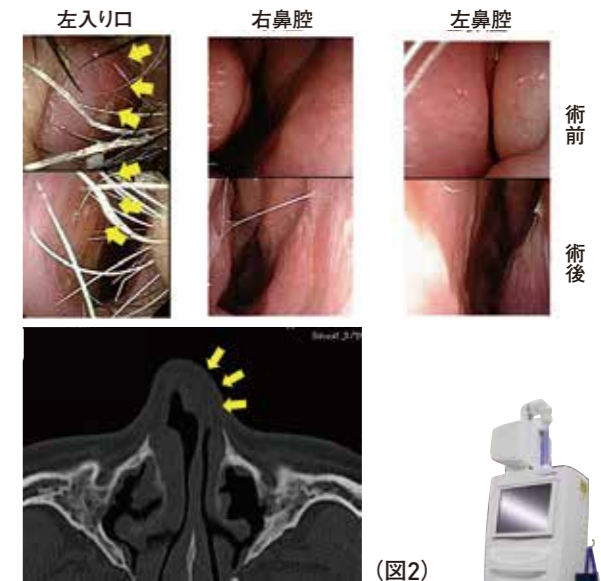
耳鼻咽喉科部長
大澤 陽子

最新統計でのアレルギー性鼻炎有病率は49.2%です(鼻アレルギー診療ガイドライン2020年版)。先生方のクリニックに通院されている患者さんの二人に一人がアレルギー性鼻炎を合併しています。花粉症の季節には、鼻炎のお薬を希望される患者さんも多いと思われます。第一選択薬は、抗ヒスタミン拮抗薬と点鼻ステロイドです。しかし、お薬を処方しても、なかなか鼻閉が改善しない患者さんがいます。このような患者さんの多くは、鼻腔形態に異常があります。下鼻甲介粘膜が著明に肥大していたり(肥厚性鼻炎)、鼻中隔が左右に曲がっているため(鼻中隔湾曲症)、手術治療が効果的です。鼻閉手術治療としては、鼻粘膜変性手術と鼻腔形態改善手術があり、鼻漏改善手術の翼突管神経切断術も副交感神経を遮断するため鼻閉に効果があります(図1、図2)。このような手術を組み合わせることにより、永久的に鼻閉が改善されます。当院では、外来日帰り手術で鼻粘膜変性手術(粘膜レーザー焼灼術)を実施しています。2019年12月に、県内初最新型CO2レーザーシステム(Lumenis AcuPulse40WG)を導入したことにより、鼻腔後方の粘膜焼灼も十分に可能です(図3)。

5-7日間の入院で鼻腔形態改善手術と翼突管神経切断術を実施しています。手術だけでなく、舌下免疫療

法の導入(副反応改善後に逆紹介)や重傷花粉症に対する抗IgE抗体療法も実施しています(図4)。患者さんの希望に沿いながら症状や重症度に合わせて、複数の治療法を組み合わせ対応しています。お困りの患者さんがいましたら、ぜひご紹介ください。

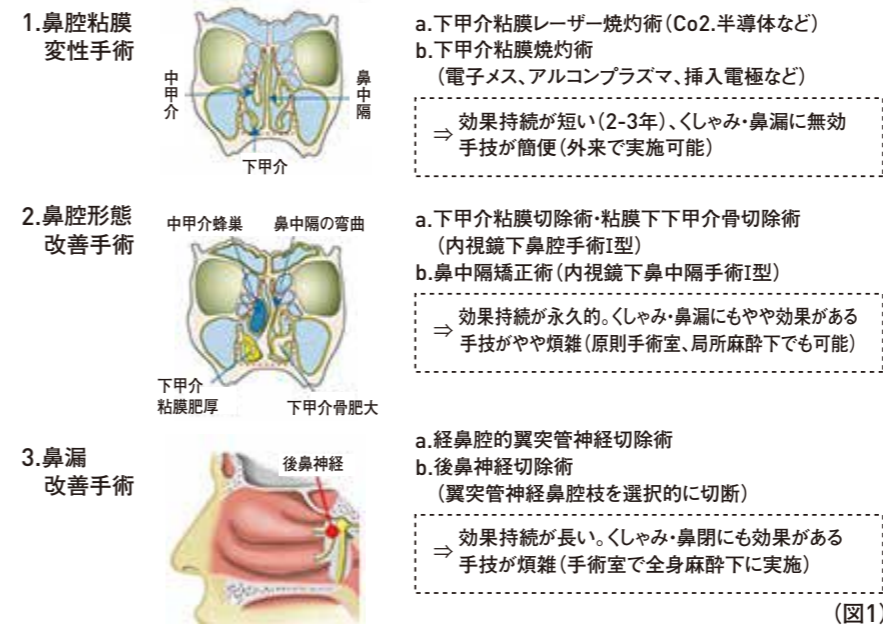
鼻中隔矯正術(外鼻形成に準じる)
両側粘膜下下甲介骨切除術
両側後鼻神経切断術
実施症例(下記)



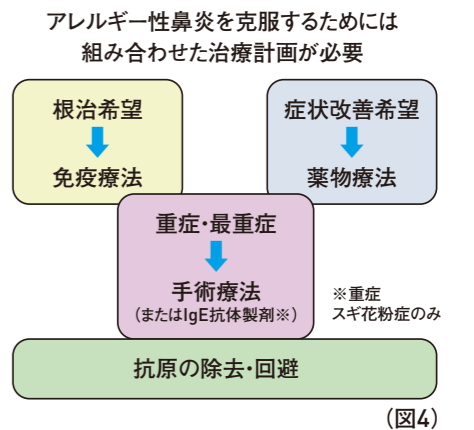
(図2)

(図3)

アレルギー性鼻炎の治療:手術療法 (鼻アレルギー診療ガイドライン2020 改変)



(図1)



(図4)